

歯科雑誌を読む勉強会 より

小学生時期の噛み合わせ

乳歯から永久歯に生え変わる学童期（六歳～十二歳）は、乳歯の奥に噛み合わせの要となる第一大臼歯が生えるとともに、歯並びや噛み合わせの問題が、表面に現れます。これは、『不正咬合』と呼ばれ、七種類に分類されます。

・反対咬合（はんたいこうごう）

上下の前歯の関係。下の前歯が連續して3本以上、上前歯より前に出ている状態。

・上顎前突（じょうがくぜんとつ）

上の前歯が、かなり前方に突出。

・過蓋咬合（かがいこうごう）

上の前歯が、下の前歯に深く覆いかぶさっている。

・開咬（かいこう）

上下前歯の連続した数本が、垂直的に開いている。

・交叉咬合（こうさこうごう）

脇の下の歯が、上より頬側に出る。

・鍼状咬合（はさみじょうこうごう）

脇の上の歯が、下の歯と噛み合わない程頬側に出ていている。

・叢生（そうせい）

前歯において、複数の歯が重なり合う様に密接している。

れ、復興の現実が目の前に広がっていたのも心に響きました。

備途中の街並みがみられ、復興の現実が目の前に広がっていたのも心に響きました。

第三十二回学術大会へ参加

七月一八日から二十日まで、先生はじめスタッフ全員で、日本臨床歯周病学会へ参加してきました。

日本臨床歯周病学会は、臨床（日々の診療）に深く関わる内容で講演会が開かれます。今回のテーマは『みちのくペリオ／再生への道』。歯周病は、完全治癒がなく、現状を維持させることが重要で、検診時に、小さな変化も見逃さない目を養う必要があります。担当を受け持つに際し、注意すべきポイントや、果たすべき事を明確にしておかないと、良好な結果は得られません。日々の診療魂に楔をうたれる実のある二日間でした。

今大会の会場は、東北・仙台で開かれました。震災から四年が

経ち、市内には震災の面影は見られませんで

したが、少し足を延ばすと、仮設住宅や、整備途中の街並みがみられ、復興の現実が目の前に広がっていたのも心に響きました。

子供の歯が抜けたら？

人は、小学校に入学する前後から、中学生の間に、乳歯が永久歯に一度だけ生えかわります。日本では、抜けた乳歯は下の歯は屋根を、上の歯は縁側をめがけて投げると、立派な永久歯が生えてくると、言われています。これには、永久歯が、真っ直ぐに生えるようとの思いが込められており、アジアの各地に伝わる言い伝えです。

一方、欧米では、抜けた乳歯を枕の下に置いて寝ると、寝ている間に妖精や、ネズミやウサギが、お菓子やコインなどをプレゼントと交換してくれます。妖精や動物達は、魔法の国からのお使いで、朝起きると子供達はプレゼントに大喜びします。

珍しい言い伝えとしては、ネズミの巣穴に抜けた乳歯を投げ入れ、丈夫な歯をもらえるように願つたり、中近東では、

太陽にむかって投げ、新しい歯をくださいとお願いしたり、子供が将来なりたい職業の場所に行き、抜けた乳歯に願いを託して埋めてくるという地域もあります。南米の地域では、乳歯に装飾を施して、首飾りや耳飾りにしたりもします。

どの地域も、願う方法は異なりながら、永久歯が立派に生えますようにと願う思いは同じようです。

